

After-image

Kaneko Chihiro



HORSE AND DEER
COLLECTIVE

研究テーマ：写真の含有する時間と自身との関係性について

【このテーマに至った理由】

「写真というツールはかなり過去に囚われているのではないか。」という疑問から、写真と時間には深い関わりがあり、その写真と撮影者である私にはどんな関係性があるのか研究しようと考えた。

「写真を撮る」とは

言葉のない日記

「その時に何を感じて何を思っていたのか。」の自分の目線での記録

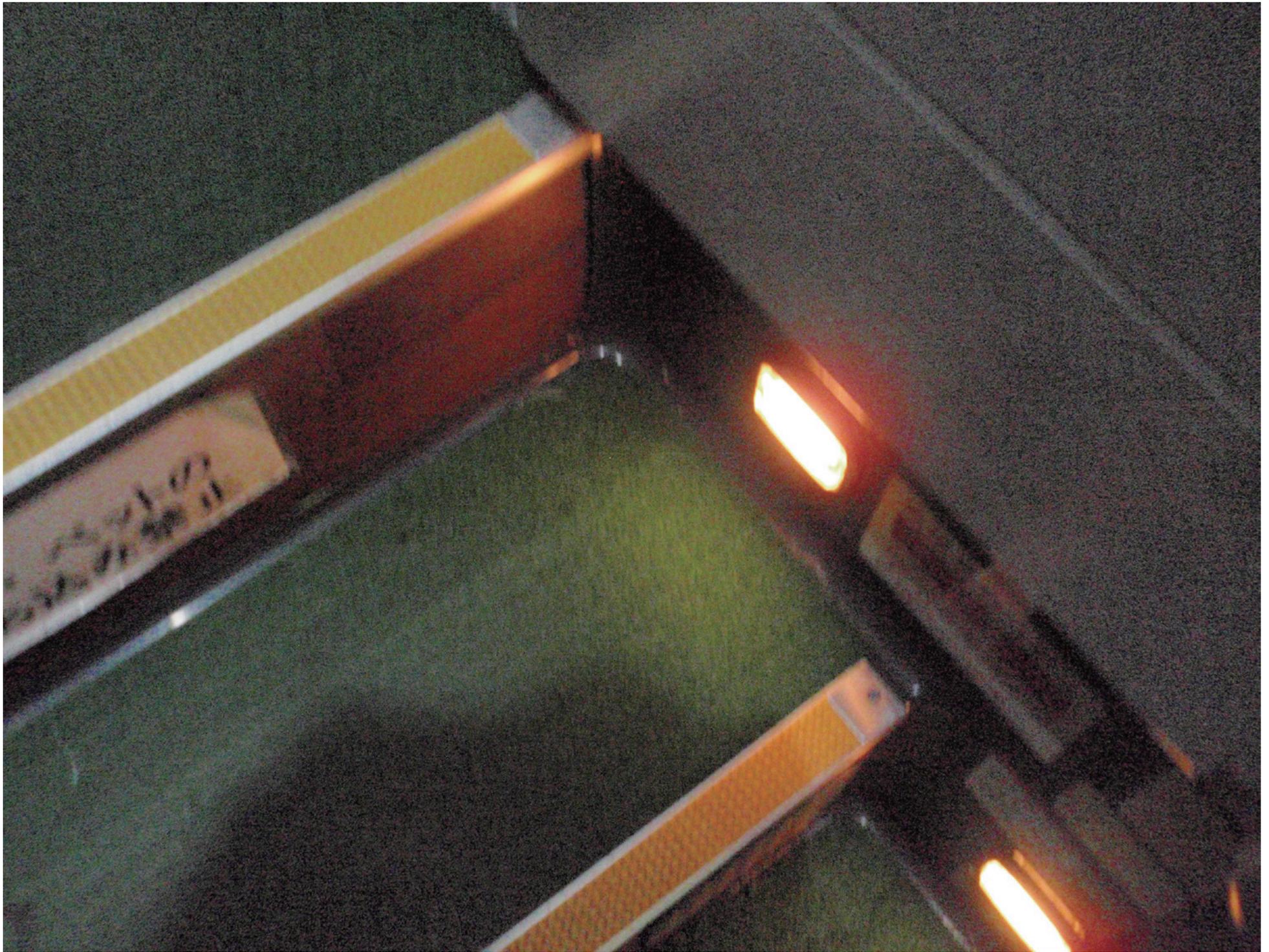
文章化してしまうと削がれてしまう「ニュアンス」を一番そのままの形で保持できる。



撮影時にカメラの外で起こっていることや情景だけでなく、そこに付随してくる「その時に自分は何を思い、何を感じていたのか。」という要素が私が写真を撮る大きな理由になっている。







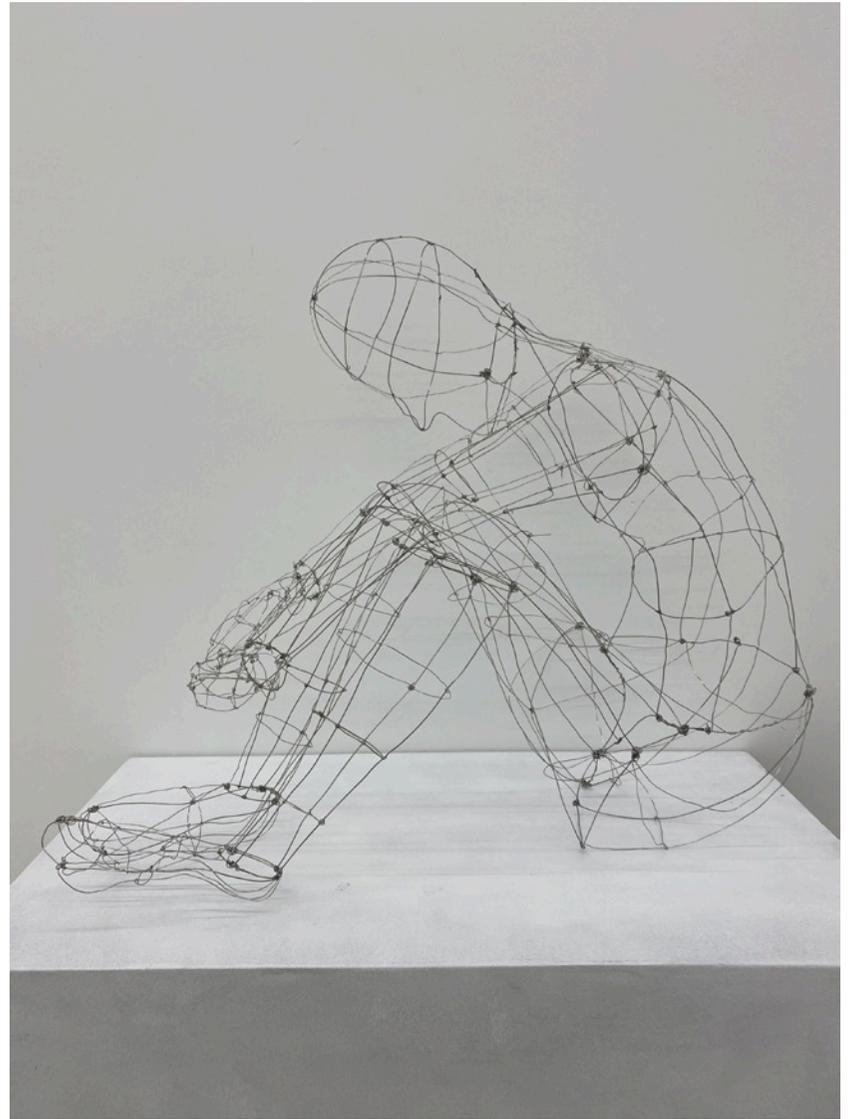


コンセプト

一見自分の姿はなくても、写真は自分自身までを写している・反映している

【制作物】

- ・ 等身大の自分自身の姿 (ステンレス線材)
- ・ 写真のスライドショー



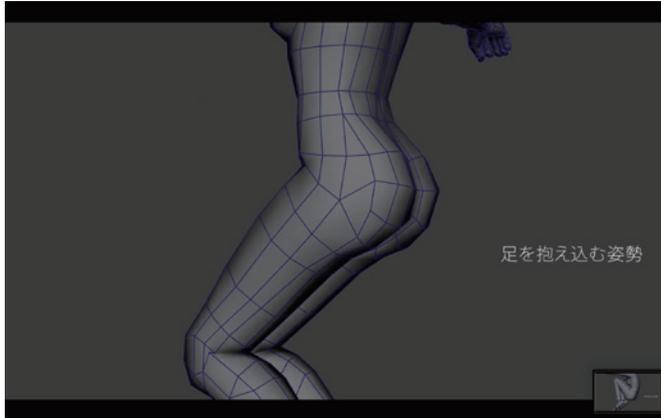
【なぜ針金なのか】

プロジェクターで投影された写真の中に影を作る際に、最低限の要素として加えたかったため、**物質としての存在感**＜**線画的なイメージ**＞として考えた。

【参考資料】

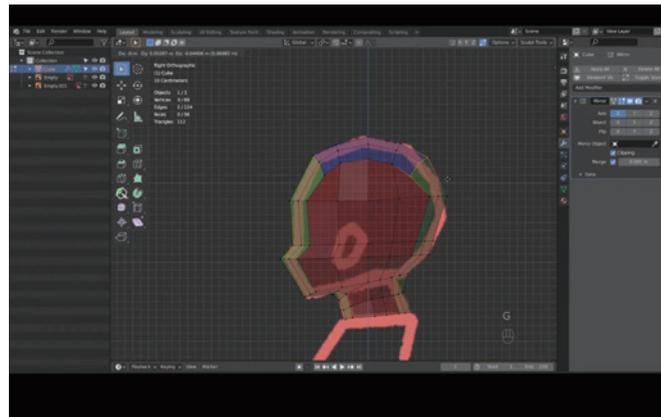
ポリゴンモデルの関節の分割線 [肘と膝や指など一方方向に曲がる関節の分割方法]

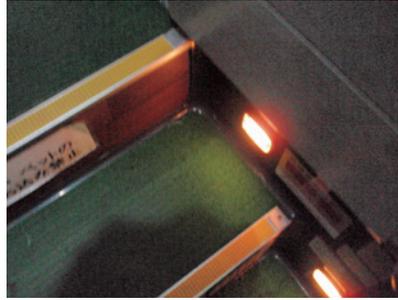
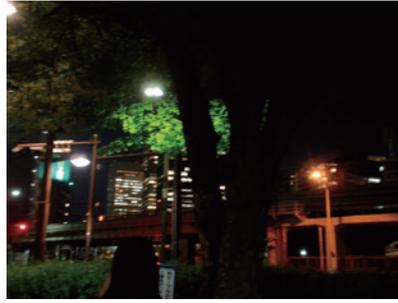
<https://www.youtube.com/watch?v=7DAFS8sga2k>



Blender2.92 ローポリキャラクター素体モデリング

<https://www.youtube.com/watch?v=VWMBtzTQ9Ro&t=477s>



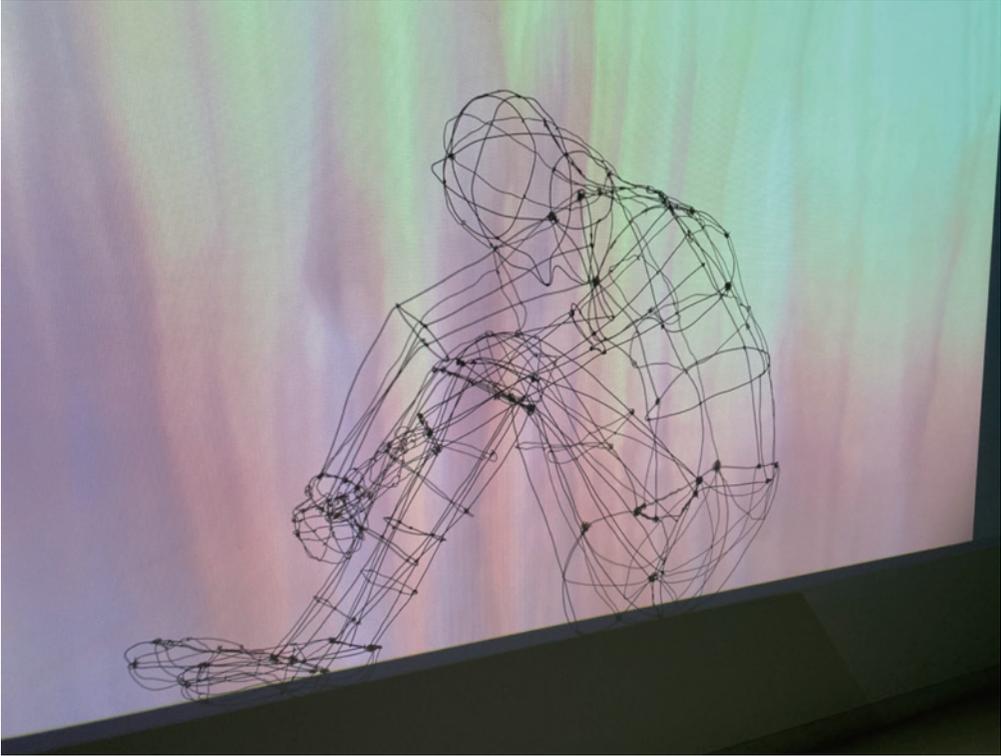


【タイトルについて】

After-image

写真の枠の中に姿はなくとも、見ることでそこにいつでも戻ることができる
イメージ、撮影時の情景・心情として写真に残像として残っている

展示風景



【研究を通して】

写真を介して発生する「思い出す・思い出させられる」には過去・現在の二者が必要不可欠である。

写真は撮影している時にどんなことを考えていたのか、どんな気持ちだったのか、という内面的なことまで写し出し、現在の自分自身を形成している大切な要素となっている。